

LRI Newsletter

SDGs/ESG



25 November 2020

SDGs を経営に統合する ～Innovability～

経済・社会・環境の面での課題に対処する為に 2015 年に SDGs が国連で制定され 5 年が経過した。現在では世界の各国政府がこの目標に合意し、多国籍企業が SDGs を達成する上での重要なプレーヤーであるという共通認識が醸成されてきた。無理やり押し付けられた目標というよりも、SDGs を経営に織り込むことにより、新たなビジネスチャンスの発掘、企業の価値向上、ステークホルダーとのポジティブなダイアログ等、むしろ多様なメリットを受ける事ができるといった認識も広がりつつある。

それでは具体的にどのように経営に取り込むべきなのか。ここでは、SDGs の企業行動指針「SDG Compass」[\[1\]](#)を紹介する。これは Global Reporting initiative (GRI)・UN Global Compact (UNGC: 国連グローバルコンパクト)・World Business Council for Sustainable Development (WBCSD: 持続可能な開発のための世界経済人会議)の 3 機関により開発されたものであり、5 ステップとその詳細項目が提示されている

ステップ 1、SDGs を理解する

ステップ 2、優先課題を決定する

- バリューチェーンをマッピングし、当該企業が影響を与える領域を特定する（どこに SDGs 実施の取り組みを集中させるべきか）
- 指標を選択し、データを収集する（大きな影響が期待できる領域において、企業活動を SDGs の文脈に細分化し、達成度・進捗度を把握できる指標を設定する）
- 優先課題を決定する

ステップ3、目標を設定する

- 目標範囲を設定し、KPI を選択する
- ベースラインを設定し、目標タイプを選択する
- 意欲度を設定する
- SDGs へのコミットメントを公表する

ステップ4、経営へ統合する

- SDGs 目標を企業に定着させる
- 全ての部門に持続可能性を組み込む
- パートナースhipに取り組む

ステップ5、報告とコミュニケーションを行う

- SDGs へのコミットメントを公表する
- SDGs 達成度についてコミュニケーションを行う

ステップ4の「経営へ統合する」、具体的には「SDGs 目標を企業に定着させる」「全ての部門に持続可能性を組み込む」例としてエネル・グループ (Enel Group) がある[2]。イタリアの大手電力・エネルギー会社のエネル・グループはイノベーション戦略の中核に、社会的及び環境的持続可能性を組み込む事を目指し、これまでの縦割り部門間の壁を取り除く為に、リストラを開始した。その結果、イノベーション、CSR、環境ポリシー部門を Innovability 部門として1つに統合し、Chief Innovability Officer が直接 CEO に報告する体制へと変更した。また、全ての国と事業分野で Head of Innovation and Sustainability を任命した。

中核になる概念が、イノベーションとサステナビリティを合わせた同社が用いる造語“**Innovablity** (イノバビリティ)”である。そして、新しいモデルの中心にあるのは、「**Open Innovablity**」というクラウドソーシング・プラットフォームである。これは、持続可能な開発目標の達成は自社だけでは限界があることから、才能のある人々・アイデア・専門知識・技術リソースをつなぐことによるエコシステムを醸成し最先端のイノベーションを生み出す事を目的としている。[3] 同社は10のイノベーションハブと5つのラボを開設しており、スマートグリッド・AI・IoTの分野で潜在可能性のあるアイデアの収集を行っている。同プラットフォームでは、持続可能な開発の為にソリューションを収集するためにオンラインチャレンジが展開されており、同プラットフォームが始まってからトータルで73件、2019年には25のオンラインチャレンジが行われた。同チャレンジは、いかなる人にもオープンに展開されアクセス可能となっている。また、同社はスタートアップを支援する Hub Programme も用意しており、選ばれたスタートアップ・プログラムはエネルのマネージャーのコーチング、技術開発やテスト・ソリューションのサポート、ワールドワイドにベンチャー・キャピタルや潜在的なカスタマーへのアクセス支援を受ける事ができる。[4]

同社の取り組みは、イノベーションとサステナビリティの両輪をインパクトのある言葉“**Innovablity**”を用いる事により、同社が持続可能な世界の実現に貢献する企業であるという価値観を社内外に浸透させ、組織ストラクチャーの変更、**Open Innovablity** モデルを通じて具体的に

SDGs の概念を経営戦略、経営組織の中に組み込んでいる例であると言えるだろう。

筆者 有泉麻依子

[1] <https://sdgcompass.org/>

[2] UN Global Compact, PA and Volans, 2020, Framework for Breakthrough Impact on the SDGs Through Innovation: A Practical Guide, [https://globalcompact.no/wp-content/uploads/2020/01/Framework for Breakthrough Impact on the SDGs Through Innovation.pdf](https://globalcompact.no/wp-content/uploads/2020/01/Framework_for_Breakthrough_Impact_on_the_SDGs_Through_Innovation.pdf)

[3] <https://openinnovability.enel.com/>

[4]

https://sustainabilityreport2019.enel.com/sites/enelcsr19/files/enel_sustainability_report_2019_eng.pdf